

卒業おめでとう!

卒業生へ贈る言葉



自分も、周りも「幸せにできるひと」になってね。たった一度の人生だもの、自分で考え自分で決めてね。
辛いことも辛いが楽しめるほど主体的に動いてみよう。
あなたなら大丈夫!

301担任 日比 伸子

こだわりは大切。でも、まあいいかって思えるのも大切。
理想を掲げてもどんどん霞んで見えなくなって、迷ってしまうこともたくさんあります。でも結局は「周りに誰がいて、何をしている自分が好きか」を大切にしたいと思うようになりました。卒業してもこの同期でできた繋がりを大切に、自分が主人公の人生を歩み続けてください。

304担任 石塚 亜衣

卒業おめでとう。誰もができることではありません。また3年間ありがとう。私も皆さんとの出会い、皆さんと過ごせた時間で、少し新しい自分になりました。
自分の理想に素直になって、「今どんな人になりたいのか」「今どんな自分でいたいのか」「今どんな時間にしたいのか」を大切に過ごすことの大切さに気付くことができました。「今」を大切にしたい未来で、また新しい私たちが、いい時間を一緒に過ごせることを楽しみにしています。
困ったり、苦しくなったり、どうすることもできなくなったら、必ず同期高校にきてください。必ず新しい解決策が見つかります。頼むから、頼って。 307担任 森岡 優介

刻苦精励

310担任 藤山 茂

March winds and April showers bring May flowers
現代文で扱った最後の教材「三月の風」はこの一節から始まっています。
3月の風が、4月の雨を連れてきて、5月に咲く花の種に水を注ぎ、きれいな花を咲かせます。将来、心の中に風が吹くことも、雨が降ることも、時には雷が鳴ることもあるかも知れません。それはすべて未来におこる何かの準備期間。どんな経験にも意味があります。同期高校で得た経験を糧に、きれいな花を咲かせてください。 302担任 磯村 美貴

いかなる権力にも、いかなる圧力にも、いかなる金力にも屈しないで、正しいとおもったことをやりとげる。それには、いささかの勇気がある

とある雑誌編集者の言葉です。自分がしてきた、あるいは、これからの経験は、あなたに思考をもたらすし、それが判断に結びつき、行動をおこすはず。自分の中の「正しさ」を選択していく勇気を、持ち続けてほしいですね。 305担任 落合 高基

3年生の皆さん、卒業おめでとう。この3年間、特に3年生として過ごした今年1年間は皆さんにとって特別なものになったことでしょう。これから先の人生では、経験したことのない困難が皆さんを待ち受けているかも知れません。時には失敗し、辛くなって投げ出したいと思うこともあるかも知れません。しかしそれは、皆さんを成長させてくれるチャンスでもあります。辛い時こそ、それを乗り越えようとする人であってください。最後に、私の高校時代の担任の先生が卒業式の日に僕として送ってくれた言葉をそのまま君たちに送ります。
"Failure is a chance in disguise."
308担任 水野 孝

☆商業科は2つで1つ☆
つらい検定の数々を乗り越えたみなさんは、見えない絆で結ばれた仲間です。
人生の壁にぶつかった時、同期のことを思い出してください。
いつまでも、この学校があなたたちの「居場所」であることを願っています。
幸せな時間をありがとう! 幸多き人生を!!

311担任 城所 幸子

3年生の皆さん、卒業おめでとう。これまで支えてくれた周りの人やご家庭への感謝を、改めて口に出して伝えることができる機会が卒業式です。密度の濃い1日を自分らしく過ごして、高校生活の最後の1ページを結んでください。楽しい時間をありがとう。さらなる成長と活躍を願っています。

303担任 伊藤 孝晴

「鏡は先に笑わない」
私が私立の教員を目指すきっかけとなった言葉をみんなに送ります。鏡の中の自分は決して先に笑いません。自分が笑えば、相手も笑ってくれるかも。自分が変われば、相手も変わってくれるかも。逆を言えば、自分が変わらなければ、相手も変わってくれません。何事も自分から行動することが大切なのです。大きく成長したみんなになら伝わるかな? 卒業おめでとう。みんなとの出逢いに感謝しています。

306担任 萩原 夕貴

卒業おめでとう。これから皆さんはそれぞれの道に進んでいきます。たくさん悩み選択したと思いますが、それが正しいものだったのか今はわかりませんが、選んだことより、選んだ道でどれだけ努力するかが大切だと思っています。将来、自分の人生を振り返ったとき、選択したもののすべてが正しかったと思えるよう努力し続けてください。そして、自分だけの人生をつくってください。

309担任 荒川 諒太

みんなとの奇跡の出会いから、あっという間に3年間が過ぎました。
たくさん 心配し
たくさん 悩み考え
たくさん 笑いました。
みんなのおかげで、元氣よく大きな声を出し、幸せに過ごせた私がいいます。
好きなことに向き合い、全力で闘っているみんなの姿は周りにいる大人を感動させ、力を与え笑顔にしてくれます。そんな自分を好きでいてください。

312担任 宇佐美 亜季

同朋 和敬

Doho High School Community Press

「感性を高める」
沖縄修学旅行特集

2
Vol.217
学校通信

同朋和敬
2
学校通信
Doho High School Community Press
Vol.217 15 FEB 2020

同朋高等学校 学校通信編集委員会 宇佐美・平岩・久野・杉浦

名古屋市中村区稲葉地町7の1 TEL:052-411-1159



Schedule [行事予定]

2月	17日 月	見舞の日、2年生音楽科午前授業
	18日 火	2年生音楽科学年未考査[~26日]
	27日 木	2年生音楽科代休
3月	28日 金	2年生音楽科修学旅行[~3月6日]
	2日 月	学年末考査[~6日]
	11日 水	1年生家庭学習、2年生自主活動日
	12日 木	家庭学習日
	13日 金	進級判定発表、健康診断(1、2年生)
	16日 月	家庭学習日
17日 火	家庭学習日	
18日 水	2年生家庭学習日、1年生自主活動日	
19日 木	修了式	

2019年度「愛知県私立学校経常費補助金」の交付金額が決定しました

保護者のみなさまには、ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。また、助成金署名や地域ごとに開催された「地域別県民文化大祭典～オータムフェスティバル」など、私学助成拡充の運動にご尽力下さいまして厚くお礼申し上げます。
2019年度の同朋高等学校への愛知県私立学校経常費補助金交付額が下表のように決定いたしましたのでご報告いたします。みなさまのご協力により、例年並みの補助額となりました。このことに感謝申し上げますとともに、教育条件の一層の充実と財政の安定化に引き続き努力してまいります。今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

◆同朋高等学校「愛知県私立学校経常費補助金」交付決定額◆

年度	一般補助金	特別補助金	総額	生徒数	1人当たり補助額
2019年度	468,955千円	11,474千円	482,427千円	1,275人	378,374円
2018年度	437,692千円	14,106千円	451,271千円	1,242人	363,342円
2017年度	464,339千円	16,793千円	486,237千円	1,294人	375,763円

今年、15歳でデビューした日本初の女性漫画家、長谷川町子さんの生誕100周年の年である。代表作『サザエさん』は、終戦の翌年から28年間に4コマ漫画として新聞連載され、テレビ放映も昨年50周年を迎えた世界最長寿アニメである。黒ダイヤル電話や丸いちゃぶ台などは相変わらずなつかしい。しかし、時代の大きな変化の中で、大家族や専業主婦など現代家族のあり様に合っていないという批判もあるようだ。それでも人気が高いつながりは何故なのか。考えてみたい現象ではある。

同朋高等学校長 梅田 功

修学旅行 in 沖縄



修学旅行を振り返って

修学旅行に向けての準備が中盤に差し掛かった10月30日早朝、沖縄のシンボルでもある首里城が火災、炎上中という全く想定外のニュースが飛び込んできました。「インスタ映えしようと思っていたのに」と訪問を楽しみにしていた生徒も驚きと落胆を隠せません。「波乱」の修学旅行となるのかと不安がよぎりました。

果たして、当日は先の不安を払拭するに余りある好天に恵まれた事もさることながら(残念ながら3団の最終日はあいにくの雨天になってしまいましたが)、生徒らが主体性をもって高い規範意識のもとに節度ある行動を実行できた素晴らしい修学旅行となりました。

今回の修学旅行はさまざまな「時」の中から「感性を高める」ことをねらいのひとつにしました。

1日目の平和学習では戦跡や資料館を巡り、凄惨な過去と基地問題に翻弄される現在の状況に触れ、事後のワールドカフェ形式でのまとめ学習で意見交流をしました。真剣に語り、受け止め合う姿がとても印象的でした。最後に平和メッセージを一人ひとり付箋に書き、クラスのメッセージシートに貼付しました。このシートは学年全体でひとつのメッセージにもなっており、どんな言葉が完成するのか予想し合う微笑ましい姿がありました。

2日目のコース別体験学習ではシュノーケリング、シーカヤック、ビーチトレッキング、シーサー作り、沖縄菓子作り、三線体験にわかれ「自然と文化」に触れました。

名古屋では見られない海の青さに歓声が沸き、始めて触れる沖縄の文化に深く感銘し、心に刻み込めたことが沢山あったと思います。

3日目の伊江島ではお世話になったご家庭での「家族や人との繋がりが」の大切さを感じたと思います。離村式後もずっとおじい、おばあと話している姿、写真を撮る姿がありました。出航後も、デッキから声をかけ手を振り続ける姿、感極まって涙する姿がありました。肉眼では姿が確認できないくらいになるまで手を振り続けて見送ってくださった島民の皆さんに強く胸を打たれました。

今回の修学旅行では教科書からは得られないことを多く学び、感じ取ってくれたと思います。知っているようで知らなかったこと、新たに見識を広げたことや興味を抱いたこと、自分自身で考えることの大切さ、多くの人々との関わりの中で感じ取ったさまざまなことなどです。感性を高めるためには直に触れる事がとても重要です。生徒たちが過ごした濃密な「時」。これらの経験を「内面の成長」「人間力の向上」にも繋げて欲しいと思います。

2年学年主任 和田 英之



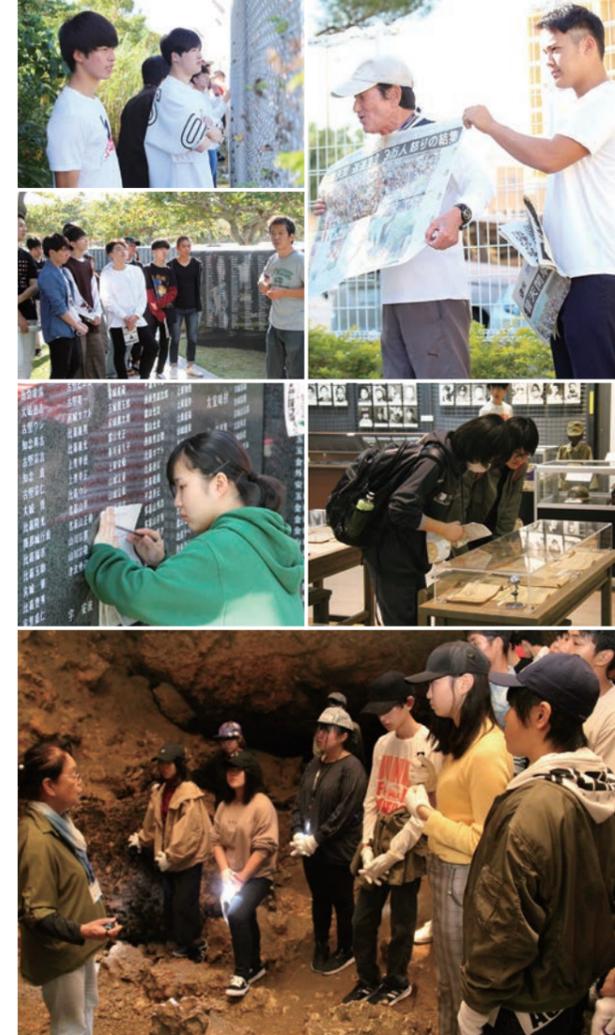
平和学習について

12月に実施される修学旅行に向けて、本校では毎年社会科、国語科、英語科の授業で平和学習を行います。今年度はより内容を充実させるために平和学習開始の時期を早め、1学期中間考査終了後から実施しました。また、昨年10月には沖縄戦を舞台にした映画である『GAM A-月桃の花』を鑑賞しました。ところどころに当時の映像が使用されているため、生徒たちは教室の授業では実感できない戦争の悲惨さを感じたことでしょう。さらに、沖縄戦のことだけではなく基地問題や空域の問題、アメリカンについてなど現在直面している問題を取り扱ったことで、私たちが容易に解決できない課題が多く存在していることを学びました。

昨年度より修学旅行初日目の平和学習は女子学徒隊コース、普天間基地問題コース、子どもの戦争体験コース、住民の戦争体験コースの中から自分が希望するコースを巡るスタイルになりました。ホテルではクラス毎にタブレット端末を用いて振り返りを行ったのですが、大変活発に意見交換が行われ有意義な時間になったように思います。

今回の平和学習を通じて、生徒たちは多様化する現代の諸問題に立ち向かっていける素地を身につけてくれたことと期待しています。

平和学習担当 松尾 良亮・一ノ瀬 裕也



平和宣言文

75年前。「戦争」によって尊い命がたくさん奪われた。日本で唯一地上戦が行われた「沖縄」。異国の兵士に恐れながら、怯えて過ごす毎日。最後まで国を信じ続け、自ら命を絶った人々…。

70年以上が過ぎた今でも、未だあの時の苦しみを忘れられない人もいます。いや、忘れられるはずがない。疎開船も襲撃され、夢や希望をもった幼い多くの命も奪われた。私たちが変わらない歳の看護学徒たちの命も奪われた。沖縄には基地が残り、今もお沖縄の人を苦しめている。

しかし、私たちは今、平和な世の中を生きている。過去に経験した「戦争」という事実をどう捉えるか。「戦争」を過去のこと、関係がないことと捉えていないだろうか。命を奪うだけでなく、人間が人間でなくなってしまう、おぞましく恐ろしい「戦争」。これはいつ、どこで、どのように、再び起こるのか、誰にもわからないのだ。

「命どう宝」。沖縄の方言で「命こそ宝」という、言葉の意味を深く胸に刻みたい。私たちは「戦争」を過去のことと決めつけず、過ちを繰り返さないために、深く学ばなければならない。相手を尊重し合い、来世に平和を繋げていかなければならない。

もっと、世界が優しさであふれるように。私たちは、過去の出来事を学び、未来に継承していくことを、平和について考え、発信していくことを宣言します。

「命どう宝」。与えられた命を全うし、繋いでいくことを誓います。

2年生 修学旅行平和委員一同



修学旅行感想文

202

榎本 愛華 (東海市立富木島中学校出身)

親しい人が亡くなる怖さ、10代で死んでしまった悲しさ、その中で生き残ってしまった後悔は、戦争によって生まれてしまう。平和な時から戦争の準備は始まっている。それを止められるのは若い私たちしかない。戦争の恐ろしさは分からない。だから学ぶ。平和の、幸せの大切さは分かっている。だから絶対に戦争は起こさせてはいけないと感じた。「目に見えることだけがすべてじゃない」。もっと深く、沖縄、日本、戦争、アメリカの関係を考える必要がある。



210

中谷 祥一 (春日井市立柏原中学校出身)

おじいさんの第一印象はサングラスをかけて、とても怖い人でした。でも、とても心の広い方でした。毎食、必ず手作りのご飯を作ってくれてうれしかったし、おいしかったです。我が子のように接してくれてとても親しみやすかったです。城山という山に登りました。頂上に着いてみたら、そこにあった景色は絶景でした。ちょうど登ったときは、夕日があって、沈むところが見えて、本当にきれいでした。他にもビーチに連れて行ってもらいました。沖縄の海は明るい青で、見ていて落ち着くほどきれいでした。ガマにも連れて行ってもらい、そこで起きた出来事などを教えてもらいました。いろいろなところにも連れて行っていただいてとても楽しかったです。



修学旅行行程

🚌 貸切バス 🛩️ 航空機 🚢 船

1日目	中部国際空港 — 那覇空港 — 平和祈念公園壕 — ガマ見学 — 魂魄の塔・米須海岸 — ひめゆりの塔・資料館 — ホテル ※今年度はホテルにて夕食後、パネルディスカッションを実施しました。
	ホテル — コース別体験学習 — 本部港 — 伊江港 — 伊江島民泊
	コース1 エコネット美ら
	コース2 じゅごんの里
	コース3 シュノーケリング+パイナップルパーク+美ら海水族館
	コース4 ヌチシヌジガマ+パイナップルパーク+美ら海水族館
	コース5 恩納村観光協会(三線・琉球ガラス絵付け・シーサー・島ぞうり)+パイナップルパーク+美ら海水族館
	コース6 ガンガラーの谷+パイナップルパーク+美ら海水族館
2日目	
3日目	伊江島内研修(民泊体験学習) — 伊江港 — 本部港 — ホテル
4日目	ホテル — 道の駅「かでな」 — 東南植物楽園 — 国際通り散策 — 那覇空港 — 中部国際空港



204

水戸 睦月 (名古屋市立笠瀬中学校出身)

シュノーケリング体験で最初に行動したときは動きにくくて違和感しかなかったけれど、次第に慣れていきました。海中ではテレビでしか見たことのない光景が広がっていて、どこか神秘的で感動しました。

206

東 桜子 (大府市立大府南中学校出身)

シーカヤック体験で最初はなかなかペアと息が合わず思うように進まなかったけれど、沖まで出て行った頃にはしっかりと方向転換もできるようになって、すいすい進んでいけるようになりました。そうするととても気持ちよく漕いでいけました。潮の香りや波の音を感じながらだったので、とてもリラックスできました。



「同朋高校オープン・フォーラム2019」報告

保護者事務局も準備してのフォーラム2019

12月7日(土)に実施した「同朋高校オープン・フォーラム2019」。今回は、保護者側からの要望で、保護者実行委員から事務局員として7名関わっていただいたおかげで、保護者の意見がより反映され、そして参加者がより一体感を感じ取られるようにと細部まで工夫がありました。

今年の「意見交流会」は、参加者が途中で飽きないよう、1グループあたりの人数を7~8名にした24グループでの意見交流としたため、個々が気軽に意見を言いやすかったようです。また、グループセッションの時間も昨年より長くとしたところ、参加者に好評でした。

参加者 生徒52名、保護者61名、教職員55名、大学研究者4名、市民3名、大学生17名ほか 合計195名

保護者・生徒・教員・市民の四者でグループセッションしました。



フォーラム冒頭は、夏に行われた地域懇談会で出された保護者からの要望・質問に対し、学校から回答しました。その後2つのテーマで意見交流会を行いました。前半のテーマは「スマホとどう付き合う?」。この中で、生徒会からの「生徒スマホ・アンケート結果報告」や「保護者(PTA地域懇談会)からの報告」、「保健室からの報告」、「授業実践の報告~3年商業科スマホ授業で発表をして~」(生徒発表)と報告がありました。その後、スマホとどう付き合うべきかグループセッションし、いくつかのグループに議論内容を発表いただきました。(すべてのグループからは、保護者書記による文章報告をいただきました)

一度決まったスマホのルール(朝から帰りまで学校でスマホを預かる)が、果たしてこの規定で良いのか生徒・保護者・教員が再検証しているケースはまれで、当日はNHKの取材もありました。

後半のテーマは、「やる気スイッチ どう入れる?」。こちらも「保護者(保護者実行委員会事務局)からの報告」や「卒業生からの報告」、「村瀬匠さん(一般社団法人FILL代表)からの報告」、そしてグループセッションでした。そのなかで、「卒業生からの報告」では本校ラグビー部にボランティアで指導いただいている服部隼太さん(2015年度卒、元ラグビー部)、そして、佐藤衣槻さん(2018年度卒)とお母さまにお願いしました。3人はどこでやる気スイッチが入ったかを赤裸々に語ってくれました。服部さんはラグ

ビーでのケガをきっかけに、もう一度自分の生き方を再考した時にやる気スイッチが入ったのではと話されました。また、佐藤さんは高校2年時に受講したFILL代表の村瀬さんのキャリア教育がきっかけだったと話されました。

参加者からは、「スマホについて、先生目線、親目線の率直な意見が聞けて良かった」(生徒)、「高校生の意見が聞けて良かった。やる気でいうと『見守る』『子どもを信じる』が大事だと思った」(保護者)、「昨年に続いてのグループセッションで話しやすかった」(教員)といったものが多くみられました。

参加者それぞれが、学ぶべきものを多く収穫できた今年度のフォーラムでした。

実行委員会事務局 宮城 道良

2019年度オープン・フォーラムの助言者

石井 拓児	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科准教授 / 教育学
榊原 博美	愛知学院大学 総合政策学部准教授 / 教育学
大橋 基博	名古屋造形大学 造形学部教授 / 教育学

『職業と進路を考える集い』

卒業生や社会人の方をお招きし、14の分科会を開いて講演をいただきました。「就きたい職に就くにはどう勉強をすべきか」「職種ごとの働きがい」など、実際に働いている方からのメッセージは生徒たちの大きな刺激になったようです。

講演後は、生徒から「進路について考える良いきっかけとなった」「系統選択についてもう一度考え直したい」など、進路について前向きな意見、感想を聞くことができました。

今後もさらに視野を広げ、納得のいく進路選択が出来ることを願っています。
1年生学年主任 梶川 千友



報恩講 “共なるいのち”を生きる

11月28日は、浄土真宗の宗祖親鸞聖人の祥月命日です。親鸞聖人の教えを建学の精神とする本校では、本年度11月27日に同朋大学・成徳館ホールに1年生全生徒が集い、報恩講を執り行いました。

報恩講とは、親鸞聖人をはじめ、今を生きる私たちまでお念仏の教えを伝えてくださった先輩方に思いをいたし、その恩徳に感謝し報いる御仏事です。同時にそれは親鸞聖人の言葉に出会い、自らの生活を振り返るお勤めでもあります。

今年度の報恩講は、各学科の代表生徒による献花のほか、音楽科生徒のリードで「三帰依(パーリ文)」を唱和し、名古屋大谷高校の一柳智史先生に法話をいただきました。一柳先生ご自身の経験をお話いただき、「共なるいのち」について考えを深めることができました。

報恩講を通してお念仏の教えに出会い、自分を見つめ直し、「同朋」という他者と認め合い、共に生きていけるご縁となれば幸いです。

宗教主任 宮城 道良



音楽科修学旅行

2月28日(金)から3月6日(金)の予定で、2年生音楽科の生徒がオーストリアへ修学旅行に出かけます。モーツァルトやベートーヴェンなど多くの音楽家たちのゆかりの地であるザルツブルクやウィーンを訪れ、本場の空気に触れてきます。また平和学習の一環としてナチスのマウトハウゼン強制収容所も訪れます。

音楽科主任 鍋木 勇樹

オーストリア修学旅行行程

- 1日目 中部国際空港→ヘルシンキ空港→ミュンヘン空港→ホテル
- 2日目 ホテル=ザルツブルク音楽研修(ミラベル庭園・モーツァルト生家など)=ザルツブルク散策=ホテル
- 3日目 ホテル=モントゼー教会=マウトハウゼン強制収容所=ホテル
- 4日目 ホテル=シェーンブルン宮殿=ケルトナー通り散策=楽友協会=ベルヴェデーレ宮殿=ホテル
- 5日目 ホテル=市立公園=シュテファン寺院=ケルトナー通り散策=ベートーヴェン遺書の家=シューベルト生家=オペラ「椿姫」鑑賞=ホテル
- 6日目 ホテル=アウガルテン宮殿=ケルトナー通り散策=国立オペラ座=王宮=ホテル
- 7日目 ホテル=ウィーン空港→ヘルシンキ空港→機内泊
- 8日目 →中部国際空港

第51回 卒業演奏会



去る1月10日(金)、伏見の電気文化会館ザ・コンサートホールにて、「音楽科第51回卒業演奏会」を行いました。

この演奏会には毎年、オーディションにより選ばれた音楽科の3年生が出演し、今年はピアノ・電子オルガン・マリンバ・打楽器・声楽・ミュージカル・ヴァイオリン・フルート・チューバの各専攻生徒が、それぞれ高校生活の締めくくりとなるステージで熱演を繰り広げました。

また、一昨年度より加わった、音楽科生徒全員の合唱とオーケストラの演奏も行われましたが、今年はさらに、名古屋市と公益財団法人名古屋文化振興事業団による「名古屋版アーツカウンシル準備委員会」との共催で、双子のソプラノデュオ『山田姉妹』にも共演していただきました。事前に特別授業を行うなど、生徒たちにとってプロの演奏家と触れ合う貴重な機会となりました。何かと忙しい時期に多くの方にご来場いただき、心より感謝申し上げます。
音楽科主任 鍋木 勇樹

必要とされる社会人となるために… 3年生を対象に外部講師招聘特別講義を実施しました



本校商業科の目標は、「賢い社会人」「賢い消費者」の育成です。この実現のために、商業科の日常の学びはもちろんですが、最前線で活躍する社会人から学ぶ機会を多く取り入れた実践教育に取り組んでいます。

社会人として求められる知識・技能を身につけるために、大手化粧品メーカーにご協力いただき、「マナー・身だしなみ講習会」を実施しました。オシャレと身だしなみの違い、身だしなみの整え方、洗顔をはじめとしたスキンケア、挨拶の仕方、ビジネスメイクなど、好感のもたれる社会人として必要なスキルを学びました。

消費者教育の一環として、生命保険会社との共同授業「ライフプランニング学習会」を実施しました。理想的な人生設計のためには、たくさんのお金が必要です。しかし、お金だけに意識が傾くと、堅実な夢の実現しかできなくなります。そこで、保険、経済、金融、税務などに関する高度な知識を有した「お金のプロフェッショナル」ともいえるファイナンシャルプランナーのアドバイスをいただきながら、適切な人生設計に挑戦しました。壮大な夢を実現させながらも、貯蓄や投資を活用し、お金を殖やすシミュレーションができ、生徒の感想からも常に最新情報の入手の必要性を感じたなど、ライフプランニングの重要性を実感してもらった学習会となりました。

今後も、本校の教育活動にご理解いただける企業と提携しながら、賢い社会人・賢い消費者を育成する教育に力を入れていきます。

商業科主任 伊吹 酬平

Club&Award News

生徒の活躍(9月15日~1月9日まで)

◆商業科

税に関する高校生の作文

名古屋中村税務署長賞 松尾 一牙 (210) 津島市立神守中学校出身

◆音楽科

第29回クラシック音楽コンクール 打楽器部門

全国大会出場 愛場 乃愛 (312) 名古屋市立北陸中学校出身

第13回ベートーベン音楽コンクール全国大会 ヴァイオリン
高校生の部

第1位 安藤 ゆい (312) 刈谷市立富士松中学校出身

■柔道部

第42回尾張名古屋知多新人柔道体重別選手権大会

男子90kg級 第3位 山田 健太 (101) 小牧市立味岡中学校出身

女子48kg級 第2位 山本 香来 (108) 扶桑町立扶桑北中学校出身

第3位 柿原 亜里南 (209) 一宮市立大和中学校出身

令和元年度愛知県高等学校新人体育大会

柔道競技 名南支部予選会

女子団体 第2位

男子団体 第3位

■男子バスケットボール部

第72回全国高等学校バスケットボール選手権大会

愛知県大会1次トーナメント Nブロック 優勝 県大会出場

■女子バスケットボール部

第72回全国高等学校バスケットボール選手権大会

愛知県大会1次トーナメント yブロック 優勝 県大会出場

■ラグビー部

第99回全国高等学校ラグビーフットボール大会

愛知県大会ベスト8

■女子蹴球部

第12回岩倉市民女子フットサル大会

フレンドリーの部 優勝 DGFCCII(2年生チーム)

■乗馬部

第44回前田記念馬術競技会

LL級障害60 第1位 梅村 凌矢(207) 名古屋市立一柳中学校出身

LL級障害60 第6位 古橋 信平(206) 名古屋市立日比津中学校出身

LL級障害40 第2位 西 悠太(103) 北名古屋市立師勝中学校出身

LL級障害40 第6位 廣田 有咲(103) 名古屋市立長良中学校出身

LL級障害30 第2位 廣田 有咲(103) 名古屋市立長良中学校出身

LL級障害30 第3位 熊澤 菜織(101) 名古屋市立長良中学校出身

LL級障害30 第6位 桐山 結依(103) 名古屋市立山王中学校出身

令和元年度愛知県高等学校馬術王座決定戦

団体総合 第3位

令和元年度愛知県高等学校新人体育大会 馬術競技

馬場馬術競技 第2位 廣田 有咲(103) 名古屋市立長良中学校出身

団体総合 第3位

令和元年度東海高等学校新人体育大会 馬術競技

馬場馬術競技 第3位 廣田 有咲(103) 名古屋市立長良中学校出身

■写真部

第66回愛知県私学美術展写真部門

私学協会長賞 佐々木 桃(107) 弥富市立弥富北中学校出身